



北海道

「ニッポノサウルス」は独自の種

札幌市 同市にある北海道大学研究グループは5月9日、恐竜「ニッポノサウルス」は、欧州のハドロサウルス科と近い間柄ながら、完全な独立種であると解明。「ニッポノサウルス」の化石は1934（昭和9）

年、日本領だった南樺太で発見、国内初の恐竜の化石でもある。白亜紀後期（約8300万年前）に生息、体長は約4mと推定。今回、骨の形などを改分析、特に幅広い下顎の形状や、顎の付け根部分、ハドロサイルス科にはない、上に伸びる骨の存在などを再確認、独立種の決め手に

青森

JR東日本が名物菓子作りで協力

青森県 同県のブランド米「青天の霹靂」の米粉を使った新菓子が4月20日に県内外の約150店舗で販売開始。JR東日本（本社・東京都渋谷区。富田哲社長）が手掛ける「地域素材応援プログラム」の一環で、地元菓子メーカー「ラグノオささ

き」（本社・弘前市。木村公保社長）と共同開発。「晴天シリーズ」と銘打った菓子は、「青天のシヨコラ」（税込み195円）、「青天のフィナンシェ」（同162円）、「青天のフィナンシェ（抹茶）」（同184円）の3類。

岩手

人気の手作りアイス店新装開店

栗石町 大自然に囲まれた牧場の一画で、素朴なアイスクリームやジェラートにこだわり続けることで有名な「手作りアイスクリーム牧舎 松ぼっくり」（本社・同町。松原久美社長）が、5月9日リニューアル

オープン。商品は近隣の松原牧場から直送される新鮮な牛乳を原料とするが、これを使いヨーグルト「牧舎ヨーグルト」も開発。専用の工房も新設。5月15日から同店、そして併設の産直施設「松の実」で販売開始。

秋田

東北道でのガス欠不安を払拭

鹿角市 同市の東北自動車道十和田インターチェンジ（IC）を舞台

にガス欠払拭の試験が4月26日から開始。東日本高速道路（NEXCO東日本。本社・東京都千代田区。廣瀬博社長）が管理する同自動車道の岩手山サービスエリア（SA。岩手県八幡平市）へ青森自動車道の青森東IC（青森市）の間約160kmの下り線には給油所がない。自動車道には通常給油所を有するSAが平均50〜60km間隔で存在するが、同区間には給油所がなく「ガス欠」が年間数十件発生するという。

この対策として中間地点の十和田ICから約1・5km先の一般道沿いのガソリンスタンド（GS）、三菱商事エネルギー大里恒三商店十和田給油所（同市）を指定給油所に指定、ETC搭載車に限り、一旦自動車道から降り同GSで給油した場合は、料金加算なしで再び自動車道に「復帰」できる試験（下りのみで、1時間以内での復帰が条件）を1年間継続する。

山形

水いらすの製紙機を市が導入

酒田市 同市はほとんど水を使うことなく再生紙ができるセイコーエ

プソンの製紙機「ペーパーボ」を導入、5月1日同市役所で稼働式を開催。

同機はコピー用紙など古紙約900枚（A4判換算）から1時間で約700枚の再生紙を製造、コストは0・4円/枚と、市販より割安。古紙の繊維を一旦ほぐし、再び整形するというハイテク技術がウリで、機械の価格は約200万円、再生紙は自由に持ち帰ることができる。

宮城

ライバル百貨店同士が共闘

仙台市 同市の中心地・一番街商店街にある、藤崎百貨店（経営母体は「藤崎」。本社・同市。藤崎三郎助社長）と、三越伊勢丹（本社・東京都中央区。杉江俊彦社長）のグループ企業・仙台三越のライバル同士が「つち」と共闘、5月3〜7日にコラボ企画「青葉の陣」を開催。洋服の着こなしなど、商品提案力やサービスを競った。

同市では近年、JR仙台駅周辺の再開発が活発で消費者の注目度も高く、逆に一番町側は劣勢に。共闘で老舗2百貨店は巻き返しに挑む。

福島

スマホを見れば感情が丸分かり？

郡山 同市に本社を置く、ITベンチャー・ウェブレッズ（佐藤保代表）は、日本ではおそらく初の、スマホを使った感情分析ツール「FACT4」をこのほど完成させた。ユーザーの表情を学習するエンジンと、同社の感情分析モデルを駆使、アクセス解析では難しい、ユーザーの視線や感情を可視化する優れモノ。スマホに搭載されるカメラ機能を使い、顔の各部位の位置を認識。また瞳の動きも把握し、眺めている個所を捉え、喜怒哀楽を分析。ネットでの動画広告の効果測定などマーケティングの手法として注目される。

栃木

ピンク色のレトルトカレー販売

栃木市 「岩下の新生姜」で著名な岩下食品（本社・同市。岩下和子代表取締役）は、十八番のシウウガを加えた「ピンクニュージンジャーカレー」を開発。5月13日に地元の「岩下の新生姜ミュージアム」と東



「ピンクニュージンジャーカレー」（岩下食品）

京都千代田区の「岩下の新生姜ミュージアムショップ in 秋葉原」で発売を開始。文字どおりピンク色のカレーで、みじん切りの「新生姜」が醸し出す新食感と独特の辛さがウリ。1人前580円（税別）。

茨城

戸田建設がイチゴ栽培に挑戦

常総市 戸田建設（本社・東京都中央区。今井雅則社長）は、アグリビジネス参入の一環として、3月30日、同市でイチゴ栽培の実証試験を

開始。同市が進める農業第6次産業化構想（アグリサイエンスバレー構想）の一環で、稲作中心だった農業を高付加価値の施設園芸へと脱皮させることが主眼。同社も、技術開発や栽培環境データ、販売などのノウハウ蓄積を期待。地元農家との協力・連携にも注力する。

約2500㎡の敷地に、施設園芸実証ハウス「TODA農房」を設立してイチゴ（紅ほっぺ）を栽培。今年12月からの収穫を目指し、今後10年ほど継続。イチゴは主として野菜直売所で販売する計画だ。

群馬

市民参加型の巨大な泥絵

太田市 4月26日、同市美術館・図書館で巨大な「泥絵」が展示。同館の開館記念展「未来への狼火（のろし）」の一環で、画家の浅井祐介氏（36）が制作を統括。市民延べ100人も作品作りにひと役。横約13・5m、縦5mの「キャンバス」に地元産出の泥をふんだんに使い、動植物や人間の生命力・躍動感を表現。7月17日までの期間限定展示で、その後泥絵は消去される。

千葉

成田空港に一大情報発信拠点

成田市 成田国際空港会社（NAA。本社・同市。夏目誠社長）は4月27日、成田空港第1ターミナル1階に、インバウンド（訪日外国人）用の情報・サービス発信拠点「ビジター・サービスセンター」を今年秋頃オープンする計画を公表。「トリップ・テラー」がコンセプトで、国内の空港としては最大の約1300㎡を誇る。ワンストップ・サービスがウリで、観光案内や旅行プランの作成、宿泊・ツアー予約を始め、携帯電話やレンタカーの手配、各種チケット販売なども行なう。



「ビジター・サービスセンター」（ANN）

埼玉

県内初、足袋蔵の町が日本遺産

行田市 4月28日、同市が「和装文化の足元を支え続ける足袋蔵のまち行田」として、文化庁の日本遺産に指定、県内初の快挙だ。同市は江戸期から足袋の生産が盛んで「行田足袋」のブランドは全国区。昭和初期には全国生産の8割を押さえていた。明治期には、原材料や完成品を保管する足袋蔵が本格的に建設され、現在でも約80軒が軒を連ねる。

東京

南町田駅前が装いを一新

町田市 5月9日、同市の東急田園都市線南町田駅前の大規模再開発の起工式が挙行。東急電鉄（本社・東京都渋谷区。野本弘文社長）グループが運営する同駅前の大型商業施設「グランベリーモール」が今年2月閉館、跡地に新たな商業施設を構築する計画で、これを機に同市と協力、駅舎の改修や隣接の市立鶴岡公園やなど約2haを一体的に再開発。風歩道道などを駅前の風景を一新。

神奈川

2019年の街開きが目標で、年間の来客数1000万人以上を見込む。

グランピングができるホテル

横須賀市 京浜急行電鉄（本社・東京都港区、原田一之社長）は、系列の観音崎京急ホテル（同市）の敷地内にグランピングを堪能できる宿泊施設「snow peak glamping 京急観音崎」を今年6月9日にオープンすると発表。「グランピング」とは、「グラマラス（魅力的な）」と「キャンピング」を合わせた造語で、大自然に囲まれ、かつ高級ホテルのサービスも楽しめるキャンプスタイル。



「snow peak glamping 京急観音崎」（京急）

新潟

目指すは「大学で日本酒を学ぶ」

新潟県 さすが「米どころ」。日本酒を文化、伝統、科学、ビジネスなど多角的に研究、「日本酒学」として確立するための「発足式」が、5月9日、県、新潟大、県酒造組合の3者により開催。もちろん全国初の試みだ。昨今の日本酒離れは日本酒醸造は「稲作王国」の同県にとって死活問題。精通した人材を育成し、消費アップにつなげたいという狙いも。2018年度には同大で講義を開始する計画で、「日本酒のたしなみ方」といった粋な講義も予定。

山梨

ハイテク企業がワイン造り？

甲州市 4月23日、半導体加工を手掛ける塩山製作所（本社・同市。松坂浩志社長）はワイナリー「MG

Vs（マグヴァイス）」を開業。半導体業界は収益の増減が激しいため、比較的安定した収入が見込め、加えて地元がブドウとワインの名産地であることからワイナリー事業にも参入。ウエハーのダイシング加工用に使っていた工場設備が、同事業のベトナム移転に伴い空いたことから、ここのクリーンルームや空調をそのままワイン製造向けに流用。「マグヴァイス」ブランドで、まずは「白」4種、「ロゼ」1種類を先行販売。夏には「赤」1種も発売。

静岡

静岡空港が民営化に向け飛翔

牧野原市 同市にある富士山静岡空港が経営の大きなヤマ場を迎える。県は現在、同空港を2019年度に民営化する方針だが、運営会社である三セク「富士山静岡空港株式会社」の全株式の8割（現在県保有の14%も含む）を公募により民間に譲渡、残り2割を既存の株主（地元の鈴与や静岡鉄道など）が維持、という方針をこのほど固めた。県は株主から外れるが、滑走路修繕など費用は引き続き県が負担する模様。来年3月

頃に民間事業者を選定、同8月頃に株式譲渡、2019年4月に民営化を果たすように、期間は当初20年間、最長45年間の延長も可能。

長野

J Aが独自の農業後継者支援策

松本市 同市に拠点を置くJA松本ハイランドは、5月9日から若手農業従事者を支援する独自事業をスタート。40歳未満で2019年2月までに農業に従事し、実家が専業または第1種兼業の農家で、かつ同JA組合員が条件。「跡取り支援金」として40万円分のJAの商品券の贈呈など特典は盛りだくさん。来年度までに計20人の申請を予定、同種の支援策は県内でも稀。

岐阜

紅茶味のハチミツを開発

岐阜市 2月20日、養蜂業・ハチミツ製品の製造・販売で100年以上の歴史を誇る老舗の秋田谷本店（本社・同市。中村正社長）は、最初から紅茶の味を含んだ蜂蜜シロップ「TEA HONEY」を開発。

紅茶と蜂蜜との相性はいいが、蜂蜜の蛋白質が紅茶と化学反応し混濁するのが玉にキズ。同社は特殊膜で蜂蜜内の蛋白質など余分な成分を除く製法を開発し商品化。価格は1本（300g）864円（税込）。

愛知

若い夫婦向けに市営住宅大改修

名古屋 高度成長期、3大都市圏では公営集合住宅（団地）が多数建設されたが、半世紀が過ぎた現在、老朽化に加え住民の高齢化、ゴーストタウン化が大きな課題に。これを解決すべく同市は5月11日からリノベーションした市営住宅の入居募集を開始。若い世代向けの呼び込みを狙う。物件は、1967年建設の市営高坂荘（同市天白区）の4戸だが、モデル物件のコーディネートに初めて民間企業を起用したのがミソ。なお、この大規模改修に掛かる予算は約2800万円。

富山

県美術館屋上に芝生庭園オープン

富山市 今年8月に全面開館予定

の県美術館の屋上で、4月29日に子供向けの芝生庭園「オノマトペの屋上」がひと足早くオープン。「オノマトペ」とは擬音語、擬態語を「あらかずフランス語で、子供向けの遊戯が多数用意されている。

開園時間は8〜22時で遊具は日没まで使用可能。12〜3月15日までは休園。

石川

実は天然フグ水揚げ日本一

輪島市 「フグ」といえば山口県下関、とのイメージが強いが、実は天然フグの水揚げ日本一は同市。これをもっとPRし地域振興を図ろうと、5月9日。市観光協会や商工団体が一堂に会して推進組織「能登半島・輪島 わのしま倶楽部」を旗揚げ。

「輪島ふぐ」を登録商標化しブランド魚を目指す他、3000円（税別）の統一料金によるコースメニューの提供にも取ちなみにコースは5品以上、「輪島ふぐ」の料理を3品以上入れるのが条件。すでに飲食店や旅館など9店が参加に名乗りを挙げている。

福井

文化財の料亭がレストランに

勝山市 4月28日、同市にある国の有形文化財「旧料亭花月楼」が、レストラン「旬菜食祭 花月楼」として新装開店。花月楼は明治37（1904）年建築、入母屋造檼瓦葺の木造2階建てで、当時繊維業で繁栄した地元にとってシンボルの存在でもあった。1999年に料亭は廃業、2016年まちづくり会社「勝山市観光まちづくり」に寄贈し、その後同社が中心となって改装工事を進めて来た。

新装の「旬菜食祭 花月楼」は、ビュッフェ形式のレストラン（昼間）やご膳を楽しめるお座敷を用意。



「旬菜食祭 花月楼」として改装された「旧料亭花月楼」（旬菜食祭 花月楼）

三重

地元銀が労働局と働き方で提携

三重県 4月26日、同県を拠点とする百五銀行（本店・津市。伊藤歳恭頭取）は三重労働局と働き方改革を推進するための包括提携を締結、中部3県の金融機関では初のケースだ。県内の就業環境の底上げが狙いで、県内のほとんどの企業と取引のある百五銀のネットワークをフルに使い、人材育成の助成制度などの周知や活用、「働き方改革」の成功事例の情報発信などを展開していく。

奈良

旅館経営を神戸の企業が委託

奈良市 4月15日、ホテル運営事業のホロニック（本社・神戸市。長田一郎代表取締役）は、同市の創業150年の老舗・吉田屋旅館（本社・同市。吉田和隆社長）が新設する新業態のホテルの運営を受託したと発表。新ホテルは「（仮称）セトレならまち」で、2018年秋の開業予定。地上4階・32室。建築には、グッドデザイン賞受賞者声澤竜一氏



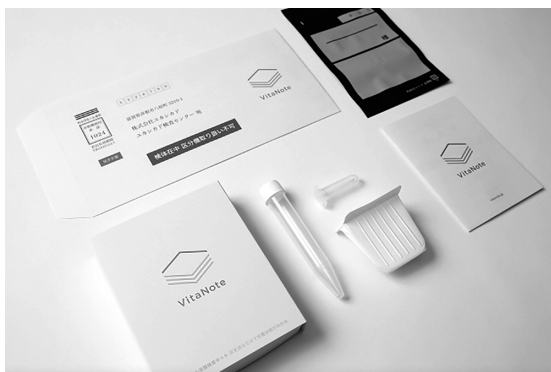
「（仮称）セトレならまち」（ホロニック）

滋賀

「尿」を郵送して健康チェック

（滋賀県立大教授）を起用、木材や石、土を多用し地域との調和を最大限に配慮、和風をモチーフにする。なお宿泊料金は1泊2食5万〜6万円を予定。

彦根市 同市の県立大は医療ベンチャーのユカシカド（本社・東京都渋谷区。美濃部慎也代表取締役）と共同で、特別なキットに尿を入れて郵送すればビタミンなどの過不足を検査できるサービス「ビタノート」を開発、4月7日から先行予約販売を



「ビタノート」（ユカシカド）

開始。栄養素の過不足値を定量化し、尿を用いた簡便な検査で、場所を選ばない郵送サービスという3点セットを有するキットは世界に例がない。ビタミン7種類、ミネラル6種類、たんぱく質、酸化ストレス（ビタミンC、ビタミンE）検査が可能で、定期的な栄養状況把握を必要とするアスリートや妊娠・授乳期の張飛者の需要を見込む。

京都

相楽東部に未来づくりの拠点

笠置町 4月18日、同町で「相楽東部未来づくりセンター」の除幕式

が開催。同センターは同地域の笠置町、和束町、南山城村と府が地域創生の拠点として開設を計画。

「攻めの政策連携」をモットーに、3町村と府から計4名が派遣され常駐、連携を強化しながら観光振興や移住促進など相楽東部地域の活性化を目指す。注目は、4名の職員がそれぞれ町村と府の職員を相互に兼務する点で、例えば笠置町の職員が府職員も兼ねると言う具合だ。実はこうした連携は全国でも非常に珍しい。

大阪

池田泉州銀がペーパレス加速

大阪市 池田泉州銀行（本店・大阪市。藤田博久頭取）は5月10日、生命保険販売での「ペーパーレス化」を宣言。専用のシステムをNTTデータと共同開発、個人情報入力の大半をタブレット端末で行ない、自動入力も駆使することで、契約手続きにかかった時間を旧来の2時間から1時間程度に大幅短縮。加えて申込書類の郵送も原則廃止、保険証券の送付も従来の2週間から最短3日間で短縮可能だという。

これにより生保購入に際し顧客が

記入する書類を12種類から2種類へと大幅圧縮。ペーパーレスとサービスアップの「二石一鳥」を目指す。もちろん、同種の取り組みは業界初。

和歌山

県がカジノ誘致に意欲

和歌山県 5月9日、仁坂吉伸知事は、カジノを中核とした統合型リゾート（IR）を和歌山市の人工島「和歌山マリーナシティ」に誘致すべく、PR活動を本格化することを宣言。

県側は当初、同地に加え、同市の「コスモパーク加太」と白浜町の3カ所への誘致を構想していたが、今回マリーナシティ1本に絞りことも明言。関空から車で約40分と言う至便さでアピールしていくようだ。

兵庫

メリケンパークがリニューアル

神戸市 神戸港に突き出た埋立地に造成され、夜景パノラマの絶景でも名高いメリケンパークが30年ぶりにリニューアル。4月5日に完成式典が開催。同港開港150周年の記念

事業でもあり、東側エントランス部の改修や、芝生広場の拡張、桜並木の整備、多目的広場の拡張、ステージ改修、照明などによる夜間景観の演出など改修は多岐に渡る。

また、スターバックスも誘致、西日本最大の店舗規模を誇る。

岡山

「チュッピー」がパンに

総社市 同市の子育て支援キャラクター「チュッピー」をパッケージにプリントしたスイーツを、山崎製パン（本社・東京都千代田区。飯島延浩社長）が5月1日から発売。チュッピーは昨年のゆるキャラグランプリ全国3位の人気キャラクター。味は「ホイップクリームドーナツ」と「たまごのロールケーキ」の2種類で、両方とも県産の牛乳が素材のクリームを使用。価格は1個108円で、中四国地方限定で6月末まで販売される。

広島

大型商業施設「LECT」開業

広島市 広島県を中心にスーパ-

マーケットを展開するイズミ（本社・広島市。山西泰明社長）は、4月28日に大型商業施設「LECT」（レクト）を広島市にオープン。飲食や衣料、生活雑貨など専門店150店を誇り、県内初出店のテナントも多数。コンセプトは、自宅や職場以外の「第3の居場所」の提供。午前から夜までゆつくりと過ごせるようにと、1階には1000席のフードコート、やレストランなども充実。

鳥取

ゆるい自給自足で観光客招致

鳥取県 県の漁業・農業を観光に活かし、観光客自らで食材を調達、調理して食べるというユニークなプラン「とっとりゆるサバツアー」が、このほど商品化。鳥取銀行（本社・鳥取市。平井耕司頭取）を中心に、地元大学生らが企画。人と触れ合いながら「ゆるい」サバイバル生活を行ない地域振興に繋げるのが狙い。1泊2日の行程で、農作業で野菜、海岸で海藻をゲット、地域住民の協力を得ながら自給自足を疑似体験する。5月20日から開始され、旅費は1人2万6000円から。

島根

来春廃止の鉄道にファン殺到

江津市 来春4月1日に廃線となる、広島県三次市と同市を結ぶJR三江線で、桜が満開を迎え「さよなら乗車」に訪れる鉄道ファンが殺到。週末には列車内は遠方からの観光客で混雑し周辺宿泊施設も満室の状態だ。周辺自治体は特産品などを販売し地元をPR。路線廃止さえも利用し地域活性化につなげようと商魂逞しい。

山口

イスタンブール姉妹都市45周年

下関市 同じ「海峡の街」同士の同市とトルコ・イスタンブールの姉妹都市締結45周年を祝し、2月5日、同市の「火の山公園トルコチューリップ園」で、イスタンブール市から寄贈されたセイヨウハナズオウの苗木の記念植樹が行われた。両市は1972年に姉妹都市協定を締結。日本では珍しいトルコの春を象徴するセイヨウハナズオウを通じて、友好関係をアピールする。

香川

地元産ヒノキ使用の新築に助成

香川県 県は特産のヒノキの消費拡大を図るため、1軒50万円を上限にこれを使用した新築住宅に対する補助金給付を5月から開始。同県は人工林面積の実に6割超がヒノキ。植林から30年程経過し建材として利用可能になったため、伐採を促進させるのが狙いである。県内のヒノキ材はスギ材に比べて割高だが、県は予算約600万円を計上、助成することによって利用促進を図る計画だ。

愛媛

「オレンジデー」を新記念日に

松山市 全国に愛媛のイヨカンを手PRする「愛媛いよかん大使」らは、4月14日の「オレンジデー」に、松山空港で特産品「清見タンゴール」を観光客に無料配布。オレンジデーは、JA全農えひめが、バレンタインデー、ホワイトデーに続き、4月14日に大切な人に愛のシンボルのオレンジを贈り、絆を深める記念日になるようにと考案。県外でも大手百貨

貨店を中心にPRを進め、オレンジの消費拡大に挑む。

徳島

サテライト・オフィスで提携

美波町 5月8日、同町に拠点を構える地域活性プロデュース事業のあわえ（吉田基晴代表）は、オフィス移転支援・空間プロデュース事業のヒトカラメディア（本社・東京都渋谷区。高井淳一郎社長）と、サテライトオフィス誘致を推進する地方自治体をソフト・ハードの両面で支援するための業務提携で合意。

実はリモートワークのノウハウを有する後者も、2015年にサテライトオフィスを同町に構築、その縁もあり両社は親密で今回の提携に。

高知

遂に議会廃止検討する村出現

大川村 過疎・高齢化が進む人口約400人の同村が、村議会を廃止し、村民が直接村政を審議する「町村総会」の設置を検討している。65歳以上の高齢者が人口の4割を占め、議員の平均年齢も70歳以上に達する。

このため村議の「人手不足」が深刻だ。ちなみに「町村総会」は、昭和26年に東京・八丈小島の旧宇津木村での設置が唯一の例で、大川村は今後、手続きや課題について国や県と相談して検討を進める方針。

福岡

「スペースワールド」跡にイオン

北九州市 今年末に閉園予定の同市にあるテーマパーク「スペースワールド」の跡地に、隣接地で「イオンモール八幡東」を2006年から運営すイオン（本社・千葉市。岡田元也社長）が、同地を利用するため地主の新日鐵住金（本社・東京都千代田区。進藤孝生社長）と交渉中と4月25日に発表した。

敷地面積は約24万㎡で、買い物と食事、エンターテインメント機能を備えたアウトレットモールの運営を予定。2020年頃の開業を目指すという。

佐賀

「サイゲームス」が進出

佐賀市 スマホ向けゲームを企

画・開発するサイバーエージェント（本社・東京都渋谷区。藤田晋社長）のゲーム子会社、サイゲームスが、4月18日、今年の夏に同市での事業所設置に関する協定を県と同市との間で締結。

同社の地方進出は初で、開発中のゲームの不具合を発見する「デバッグ業務」を行なう予定。

藤田社長は同県出身であり、かつ同社がサッカーJ1サガン鳥栖のスポンサーであるなど、両者の関係は深い。

長崎

東急ハンズが特別列車運行

長崎市 JR九州（本社・福岡市。青柳俊彦社長）は4月22日、開業1周年を迎えた東急ハンズ長崎店とコラボ、同店の生活雑貨を販売する列車「東急ハンズ、ヒント・マーケット列車」を運行した。当日は、佐世保―長崎間を結ぶ快速電車「シーサイドライナー」の車内を東急ハンズの装飾に改装、佐世保、早岐、諫早、喜々津の4駅に停車し、車内で文具や化粧品、鉄道グッズなど約250種を販売、商品のワークショップな

ども催された。

大分

「宇佐空の郷」がオープン

宇佐市 同市の旧宇佐海軍航空隊正門跡地に、戦争遺構巡りの拠点施設となる「宇佐空（くう）の郷」が4月21日オープン。

同施設は、同市周辺に点在する戦争遺構5カ所を整備・公開する計画「平和ミュージアム構想」事業の一環で、屋外には復元した門柱の他、大型バス用の駐車場やトイレ、休憩所、レンタサイクル用の駐輪場も完



「宇佐空の郷」の除幕式(宇佐市)

備。入場は無料。

熊本

「くまモンジェット」が台湾へ

熊本市 「くまモン」をデザインした「くまモンジェット」が、5月26日から、熊本―高雄（台湾）間で就航。台湾のチャイナエアが運営、台湾観光局と高雄市の3匹のクマのキャラクターも機体にペイントされる。週3往復の定期便に3年程度使用される。

「くまモン」が国際線の機体デザインに使われるのは初で、乗客用のクッションや紙コップもくまモン仕様となる。

宮崎

歓楽街「ニシタチ」をPR

宮崎市 県最大の歓楽街・同市の西橋通り、通称「ニシタチ」の魅力を伝えるPRサイトを、市と市観光協会が4月15日に公開。サイトには飲食店など30店舗が掲載、実際に働く店員達がか、情緒と風情溢れる街の魅力を発信。

また同市は、県外からの観光客向

けに宿泊費1人1泊2000円の補助も用意、県外での知名度アップを目指す。

鹿児島

出水麓歴史館がオープン

出水市 出水郷に赴任する藩士の住宅兼陣地として江戸期に薩摩藩の重要な防衛拠点であった、出水麓の歴史を伝える『出水麓歴史館』が5月1日開館。

出水麓は、同藩内では最大規模で、藩内の他の麓がこれを模範にしたと



「出水麓歴史館」(出水市)

も。

また、1995年には国の重要伝統的建造物群保存地区にも指定。武家屋敷散策の拠点となることが期待される。

入場料は高校生以上500円、小中学生300円。

沖縄

米CNNが沖縄モズク取材

糸満市 米CNNのウェブ番組が4月24日、県内のモズクを生産・販売する水産加工会社イトサン(本社・同市・大城忠社長)を取材。

同社のモズク養殖場で収穫作業風景を撮影したり、「フアー・マーズ・マーカー」といって「うまんちゅ市場」でモズクPRイベントを取材したりした。

同番組は、まだまだ世に知られていない仕事や自然を求めて世界中を駆け回り、その魅力を紹介するという人気番組。

「モズク」が一大産業となつている場所は、世界広しと言えども沖縄しかないため注目された。早ければ5月にもSNSを通して全世界に公開される。